

ほろけん

344 血压



大崎短歌会

兼題『おせち・自由』

店先のお節は2万5千円

足早に過ぐ晦日の朝

折おせち神棚に置き千両も

新年彩り無病祈願す

雑煮食む幸せな時を励みとし

残り世生きん笑顔添えて

あら玉の安らかなりを重箱に

お節数々思ひは深し

年の瀬に食材求め店巡り

豪華絢爛迷いしお節

庭先の日溜りに咲く黄な花は

今は盛りの石路の花

何となく父母に会いたい年の暮れ

今日の二回目墓に参りぬ

本後淑子

川崎健一

山下海征

井元かず子

栢山重子

実吉安仁

坂元つる子

おせちには必ず加える昆布巻

亡母と作りし遠き日偲ぶ

ばあちゃんのおせち懐かしリユック背負ひ

ひたに待ちいる孫は町育ち

上南紀子

薩摩郷句

兼題『餅』

一升餅ち 一生を願ごつ 背負わせつ

(唱) 餅ち将来く頼だ 重びばつ頑張れ

上村牛歩

雑煮餅つ 総入歯ゆ外じつ 歯茎で食つ

(唱) 歯を盗つじ 外せた方が良

二見愚楽満

餅つ炙つ 自分も温もい 股火鉢

(唱) 餅も炙れつ 一石二鳥

井上三ちゃん

炙い餅つ 黒炭みなけた 長げ電話

(唱) 何時迄い語つ ちよいち亭主

北村虎王

棟上げん 餅ちや見いもせじ 金ぬ拾るつ

(唱) 金ぬ目掛けつ すばしけ子供

満石うらら

餅搗つの 音が懐かし 遠え昭和

(唱) 聞かんごなつた ペッタンペッタン

諸木小春

餅ちゆば食つ 今年も減らん 腹回

(唱) 餅ちゆ張い付けた よな腹れしなつ

下橋清天

囲炉裏端で プーチ膨れた 餡餅

(唱) 旨も焼けたが お前も早よ食え

藤元鬼瓦

爺の説教 餅ちゆ食た程ん 効つ目あつ

(唱) こんこん諭し 爺様め納得

西ノ園ひらり

餅搗きな 都会かい手伝い 凄ぜ弾ん

(唱) 手伝いなつた 邪魔ぎなつた

長重リリー

心配らしち 餅つ選い除けた 正月料理

(唱) ひつかくつでち 家族中心配焼つ

遠矢耐多

餅も買つ 楽な正月の 世いけなつ

(唱) 正月も気楽 平常と変わらん

上窪小絵